情報通信審議会情報通信技術分科会
研究開発・標準化戦略委員会
標準化戦略ワーキンググループ（第７回）議事概要

１　日　時 平成２０年２月１９日（火）　１０時００分～１２時３０分

２　場　所 三田共用会議所３階　第３特別会議室

３　出席者（敬称略）

構成員

相澤清晴（主任）、淺谷耕一、玉井克哉、平松幸男、本城和彦、加藤泰久、古賀正章、加藤隆、川西素春、村上和弘、森脇鉄朗（日比慶一　代理）、宮島義昭、成井良久（江﨑正代理）、原崎秀信、花輪誠、小森秀夫、北地西峰、岡進、勝部泰弘、伊藤秀俊（森下浩行代理）、喜安拓、藤咲友宏、山下孚、中西廉、岡村治男（大野真 代理）

事務局

田中宏（通信規格課長）、荻原直彦（同課標準化推進官）、増子喬紀（同課標準推進係長）、山﨑浩史（同課標準推進係）

４　議事

（１）標準化戦略ワーキンググループ（第６回）議事概要の確認

資料 標－７－１ 標準化戦略ワーキンググループ（第６回）の議事概要の確認が行われ、特段コメント等なく承認された。

（２）重点標準化技術分野の選定について

事務局より、資料 標－７－２及び資料 標－７－３に基づき、国際標準化に関する重点技術分野の選定（案）及びアンケートの集計結果について説明があり、以下の質疑の後、承認された。

・資料 標－７－２の２（１）において、「ＮＧＮとは概念を別とする将来の市場を目指したもの」との記述があるが、別というとその概念を明確にする必要があり、難しい。新世代ネットワーク技術は、ＮＧＮの先を行くというイメージがいいと思う。また２（２）において、「今後リリース２に向かうＮＧＮとＩＰＴＶは同じ市場を形成していくものと考えられる」との記述があるが、同じ市場かどうかはわからないので、ここで決め付けない方がいいと思われる。

・事務局案では、前回の議論を踏まえＩＰＴＶ技術分野をＮＧＮと組み合わせＮＧＮ／ＩＰＴＶとし、新たにユビキタス技術を１０分野に加えている。今回の分類は、市場の観点で整理されており、以前のＩＰＴＶ技術を単独としていたものよりも、分野の大きさも含めバランスがいいのではないかと思う。

→ホームネットワーク（ＨＮ）は他の技術分野と比較して、範囲が広いわりに目玉が分かりにくい。また、標準化も混沌としている状況である。ＩＴＵでもＪＣＡ―ＨＮがあるが、うまくまとめられていない。ＩＰＴＶはＨＮの構成を決める重要なアプリケーションであり、ユビキタスやエコネットもＨＮと関係してくるので、分類について再度検討する必要があるのではないか。

→重複はどうしてもあると思う。本当にＨＮに特化したようなものが対象となってくるのだと思う。

→ＨＮに関して、どこまで標準化するのかという議論もあると思う。ＩＴＵでもＷＴＳＡに向けて、ＨＮをどう扱うか問題になっている。総務省では、３月５日から７日ま

での期間で、ホームネットワークの実証実験を実施する予定である。今回の目玉は、家の外のサービス事業者などが家の中のＨＮを使って、新たなサービスを創出できるよう取り組んでいる点である。警備会社や介護サービス事業者がＨＮを使った新たなサービスを展開し、将来的には市場の拡大につながればいいと思っている。

（３）ＩＣＴ分野における国際標準化戦略（中間報告）（案）について

資料 標－７－４～９に基づき、事務局及び各作業グループのリーダから、ＩＣＴ分野における国際標準化戦略の中間報告（案）に関して説明があり、重荷以下の質疑の後承認された。

・資料 標－７－４(P.1)の「1. ＩＣＴ標準化強化プログラム」について、各項目の順番を章立てに合わせた方がいいのではないか。
→個別プログラムとして、「ＩＣＴ標準化強化プログラム」と「ＩＣＴ知的財産強化プログラム」の二つがあるので、全てを章立てに合わせると分かりにくくなると思う。個別プログラムの中で、順番を変更することは可能。
→ＩＣＴ国際競争力強化プログラムを受けて、戦略を作ってきているので、必ずしも、章立てに合わせる必要はないのではないか。順番については、主任の判断に任せていただければと思う。

【第１章】我が国のＩＣＴ分野における標準化活動をとりまく現状と課題

・1.4における「ＩＴＵでもこれらの新しい標準化活動を取り込む活動」の記述について、これはＩＴＵにおけるＦＧ等の活動を指しているかと思うが、これを「新しい標準化活動を取り込む活動」というのは、少し言いすぎではないか。
→ＦＧの活動については、メンバーをＩＴＵだけに制限するのではなく、他の様々なフォーラムや民間企業を取り込んで活動しているので、言いすぎではないと思う。
→実行のレベルは別として、取組む姿勢があるというのは事実だと思う。
→書きすぎというような印象を受ける人がいるならば、「新しい標準化活動への対応が始められる」などに置き換えてもいいかもしれない。

・1.4の流れを「デファクト標準の活発化」、「デジュール標準の多様化」、「それらの活動に対して、日本が対応できていない」という順番にした方がいいのではないか。
→その方が、わかりやすい。修正をお願いする。

・冒頭のサマリーがないが、第１章では記述しないのか。
→特段意図して記述しなかったわけではない。記述したい。

【第２章】ＩＣＴ国際標準化戦略マップの整備

・資料 標－７－６（P.7）について、日本の国際競争力の強化が目的なので、国ごとの評価が必要ではないか。
→本資料は、たたき台ということで、ＴＴＣのＩＰＴＶセミナーの資料を流用した。今後、国ごとの情報についても加えていくつもりである。

・資料 標－７－６（P.8）に関して、今後は全ての参加国の取組み状況を書いていくのか。
→標準化戦略マップは、センターで整備していくものだと考えている。ただ、全て作るのは多くの作業量が必要なので、中心となる数カ国の取り組みを書くのだと思う。
→国が先導して取り組んでいればいいが、メーカー等で取り組んでいる場合、この資料では読み取れない。ある技術について、どのような企業が提携していて、どのような関係になっているかなどを把握できることが重要。海外の企業がどのようにサービスを広げようとしているのか、標準化戦略マップから読みとれるようにできるといい。

・本マップについては、外に向かってオープンにして戦略を見せるのか。戦略として扱うならば、オープンとするところと、しないところの２重構造を作っておかないといけない。手の内は書かないということも考えられる。
→マップに対するアクセス制限については、第１０章にも記述があるので、第１０章と合わせて議論いただければと思う。

・資料 標－７－６（P.10）に関して、タイトルが標準化戦略マップとなっているが、スケジュールやロードマップに見える。戦略マップとスケジュールは違うものと考えているが、いかがか。マップというからには、文書ではなくマップなのではないか。
→国際標準化戦略マップは、本資料全体でマップであり、戦略の検討に使える材料を提供するものだと認識している。作業グループでも議論があったが、標準化戦略マップとパテントマップを組み合わせて、戦略を読み取る。マップという名称が相応しくないなら変更する。
→このマップが何を意味しているのか、もう少し記述し、誤解がないようにして頂きたい。また、標準化戦略マップを見た際に、何らかの戦略が読み取れないといけない。ＩＴＵの動向をみて、国内でどのような対応をとるかなど、国内と海外の標準化のインタラクションがあれば、戦略になると思う。
→本戦略マップについては、パテントマップとつきあわせて使い、日本の強み・弱みを把握して、それらに対してどう取り組んでいくべきか戦略を立てることを目的としている。また、センターは一企業では集められない情報を集めるという機能もある。事務局としては、標準化戦略マップから、戦略が読みとれるように作成いただきたいと考えている。マップを見て、連携が必要なところは国からも予算を出して支援したい。

・特許庁でも、特許マップを作成している。最近標準化の作業においても重複作業は避けようという流れがあるので、標準化戦略ＷＧでは、どのフォーラムが主導的に標準化を進めているのかや、単にラバースタンプ的な取組みをしているのはどこの組織なのかなどが分かるような戦略マップだといい。

【第３章】ＩＣＴ知的財産強化戦略の策定
・3.1.1(2)で挙げている、標準化に関連した知的財産問題について、どう問題なのかを調査・研究することが必要である。それを踏まえて提言を書くような機能もセンターに必要ではないかと思う。第３章か第１０章等で記述いただければと思う。
→第１０章と調整の上、記述を考えたい。

【第４章】ＩＣＴパテントマップの整備
・資料 標－７－７、資料 標－７－８がマップになるという理解でいいか。標準化の規格として含まれる基本特許をどう抽出するのか。今後はどのようなやり方で進めるのか。もれなくマップを作るとなるとお金がかかるので、お金のかからない方法も検討が必要ではないか。
→縦軸に課題を並べ、横軸に解決策を並べて比較するというようなやり方もあるので、検討いただければと思う。標準化マップとパテントマップがうまく連携できるようにしていただきたい。
→まだ、どういう標準化をターゲットとするのか明確ではなかったので、当資料は、そのあたりをつけるために試作したものであることを理解いただければと思う。
【第５章】ＩＣＴ標準化エキスパートの選定
・人材育成プログラムの策定や学位・認定などの機能を、センターの機能に加えてもいいと思う。
→5.3.2において、長期的視点にたった若手育成の必要性を指摘している。ただし、大学の中のカリキュラムまで踏み込んで記述してはいない。
→もう少し踏み込んで記述いただいてもいいと思う。

・エキスパートがどういう能力を持っていれば充分なのか記述がないように思える。例えば、TOEICの点数など、どの程度の専門分野の能力が必要かなどがわかると、選定される側もわかりやすいと思う。
→P.48の記述のとおり、日頃から会議に参加し活動に継続的に寄与していくことにより、その技術的見識や管理能力を他の参加者に認められるものを指す。
→管理能力とは具体的にどいうものかということ。
→選定基準がないと候補者も困ると思う。例えば、ＩＴＵであるならば、ＷＧレベルのエディタやラポータの経験者など、例示があってもいいと思う。
→ＳＷＧでもそのような実績がある者を想定しており、第５章にも記述している。抜けがあるならば記述する。

・経済産業省で、標準化検定というものを実施すると聞いている。そこでは、どういう能力を検討するのか。
→標準化検定の内容については、人材育成特別委員会でどのような育成がいいのか検討しているところ。今のところ内容は固まっていないので、状況がわかり次第、本ＷＧに情報提供させていただく。

【第９章】アジア・太平洋地域における連携強化
・仲間作りは重要だが、お金が必要であるので、支援の必要性について記述されてはどうか。
→具体的にどう仲間作りするのか。交流プロジェクトを作るというような具体的な対策を記述されてもいいと思う。
→仲間作りの方法については充実を図り、いくつか例を挙げたいと思う。

【第１０章】ＩＣＴ標準化・知財センターの設置
・オープンの範囲は。
→マップやセンターの成果物等については、基本的にオープンと考えている。ただし、マップの作成などに協力いただいた企業と、その他のメンバーに対して等しくオープンとするかは検討が必要である。
→客観的なデータベースはオープンでいいと思うが、日本のスタンディングポイントがオープンになると、他国に日本の戦略が筒抜けとなるので良くない。オープンとする部分とクローズにする部分は分けておかないといけない。
→例えば、標準化戦略マップとパテントマップに関しては、オープンにするという方法もある。

・10.3.2の(3)、(4)、(5)について、具体的にあればもっと記述した方がいいし、課題なら、10.7に記述いただければと思う。また、取組むべき技術の優先度の決め方や意思決定の方法の記述も必要があると思う。
→10.3.2の(3)、(4)、(5)について、作業グループにおいて深い議論はしていない。ＷＧ等での指摘を記述した。項目によっては10.7に移すことも考えたい。意思決定の方法については記述していない。
→10.3.2の(3)に、大学の特許管理に対して助言するとの表現があるが、最近では大学側も知財本部を設置し、特許管理についても取組んでいるので、「標準化活動に関するデータを提供し、戦略立案に関してサポートする」等の記述に改めて頂ければと思う。
→了。10.7にまとめる方向で考えたい。

・第１０章は全体としてあっさり記述している印象を受ける。実際にセンターをどのような体制にするかといった議論になればもっと内容が充実してくると理解。今後に向けて中身の充実を図ることを考えていただきたい。また第９章までのどの取組みをハ

イライトするのかも含め議論いただければと思う。

【全体】
・構成委員が技術系の方がほとんどである。文化や経済、国際等の感覚も含めた戦略ができれば、戦略の幅が広がるのではないかと思う。

・6.4.3.1の光ディスクについては、時期的に微妙なので少し検討いただければと思う。

・資料 標－７－４において、人材育成・各種標準化活動支援について、エキスパートの選定についてはセンターが実施するが、その他全てをセンターがやるというわけではないので、書き方の工夫が必要かと思う。

・ガイドラインについて、誰が作成するのか記述がないが、誰が担当するのか。
→基本的に、ガイドラインは今回の答申の際に参考資料として添付していただくことになると考えている。例えば２、３年後にガイドラインの見直しが必要となった場合に、誰が対応するのかなどは、センターの機能を議論している作業グループと相談の上、検討させていただきたい。
→他のマップ等もセンターが管理するので、ガイドラインの管理もセンターの機能として入っているといいと思う。

・第１章から第９章で記述した機能のうち、センターが担う機能については、きちんと第１０章に記述いただければと思う。

（４）その他
資料 標－７－１０に基づき、事務局から今後のスケジュールに関して説明があった。
次回ワーキンググループの日程等については、主任と相談の上、別途事務局より連絡する旨連絡があった。

［配付資料］
資料 標－７－１　標準化戦略ワーキンググループ（第６回）議事概要
資料 標－７－２　ＩＣＴ国際標準化戦略重点技術分野について（案）
資料 標－７－３　重点技術分野（案）に係るアンケート結果（概要）
資料 標－７－４　ＩＣＴ分野における国際標準化戦略中間報告概要（案）
資料 標－７－５　ＩＣＴ分野における国際標準化戦略中間報告（案）
資料 標－７－６　ＩＣＴ標準化戦略マップ（案）
資料 標－７－７　ＩＣＴパテントマップ（ＩＰＴＶ）（案）
資料 標－７－８　ＩＣＴパテントマップ（環境）（案）
資料 標－７－９　ＩＣＴ国際標準化推進ガイドライン（案）
資料 標－７－１０　標準化戦略ワーキンググループ検討スケジュール（案）

参考資料１　ＩＣＴ標準化・知的財産強化プログラムの全体イメージ
参考資料２　標準化戦略ワーキンググループ構成員名簿

以上